

国公立大学 | 説明問題演習③

【解答】

- (1) 選択肢が増えると、比較すべき情報が増えて決定が難しくなり、その結果にも満足しにくくなることがあるということ。[54 字]
- (2) 選択肢が増えるほど比較すべき違いや結果が増え、選ぶための負担が選択肢の多さによる利益を上回るということ。[50 字]
- (3) 選ばなかった選択肢の方が、よりよい結果をもたらしたかもしれないと考えるから。[37 字]
- (4) 選択肢があるだけでは十分でなく、それらを無理なく比較し適切に扱える場合に初めて選択が有益になるということ。[50 字]
- (5) 正解:(ウ)

【解答・解説 | 自己採点基準】

- (1) 12 点
本文の対応箇所 | 設問英文の直前・直後
Such variety is usually regarded as a sign of freedom.
In some circumstances, it can make decisions more difficult and their results less satisfying.
採点基準 | ①多くの選択肢は一般に自由の表れと考えられる[2 点] ②選択肢が増える[2 点] ③決定・選択が難しくなる[4 点] ④選択の結果に満足しにくくなる[4 点] 計 12 点
自己採点ポイント | 「選択肢が多くても自由とは限らない」だけでは不十分。直後の decisions more difficult / results less satisfying を具体的に

答案へ入れる。

- (2) 10 点
本文の対応箇所 | 設問英文の直前・直後
As the number increases, however, they must consider more differences and imagine more possible consequences.
Faced with too much information, people may postpone a decision or avoid making one altogether.
採点基準 | ①選択肢が増える[2 点] ②比較すべき違いが増える[2 点] ③より多くの結果を考える必要がある[2 点] ④選択する負担が利益を上回る[4 点] 計 10 点
自己採点ポイント | 「選択肢増加 → 検討事項増加 → 選択の負担増加」という流れを押さえる。「選択肢が多いと迷う」だけでは具体性が不足する。

- (3) 8 点
本文の対応箇所 | 設問英文の直前
When many attractive alternatives were available, people can easily imagine that one of the rejected options might have produced a better result.
採点基準 | ①選ばなかった選択肢がある[3 点] ②それがよりよい結果を生んだ可能性を考える[5 点] 計 8 点
自己採点ポイント | 根拠は直前の一文にほぼそのまま存在する。rejected options → might have produced

a better result を簡潔な日本語に変換する。

(4) 12 点

本文の対応箇所 | 設問英文の直前・直後

Having no meaningful alternatives can leave them powerless, and some degree of choice is essential to personal independence.

More choice is beneficial only when people can compare the alternatives without being overwhelmed by them.

採点基準 | ①ある程度の選択肢は必要である[3 点] ②選択肢の存在だけでは十分ではない[3 点] ③選択肢を比較・処理できることが必要[4 点] ④その場合に選択肢の増加が有益になる[2 点] 計 12 点

自己採点ポイント | 「選択肢は必要」+ 「多ければよいわけではない」の両面を書く。特に without being overwhelmed by them の内容を「無理なく比較・処理できる」と答案化する。

(5) 8 点

正解:(ウ)

(ア) × 第 1～3 段落では、選択肢が増えすぎると決定が難しくなり、選択後の満足度も低下する場合があると述べています。

(イ) × 本文は「選択肢を検討すべきでない」とは述べていません。むしろ、選択肢を適切に比較できることが重要だとし

ています。

(ウ) ○ 第 4・5 段落の主張と一致します。選択は自由に必要ですが、単に数を増やすだけではなく、understand and manage できることが重要です。

(エ) × 問題は選択肢の存在を知らないことではなく、選択肢が多すぎることで比較や判断が難しくなることです。

【全訳】

選択肢が増えることが負担になるとき

現代生活では、人々には非常に幅広い選択肢が与えられている。消費者は何百もの商品の中から選ぶことができ、学生は数多くの科目から選択でき、働く人々にはいくつもの進路がある場合もある。このような多様性は、通常、自由の表れだと考えられている。しかし、選択肢が増えたからといって、必ずしも人々がより自由だと感じるわけではない。場合によっては、選択肢が増えることで決定が難しくなり、その結果に対する満足度も低くなることもある。

その理由の一つは、選択肢が一つ増えるたびに、それについて考える必要が生じることである。選択肢がわずかなければ、人は比較的容易にそれらを比較できる。しかし、その数が増えるにつれて、より多くの違いを検討し、より多くの結果の可能性を想像しなければならなくなる。選ぶために必要な労力が、選択肢が増えることによって得られる利益を、ついには上回る場合がある。あまりにも多くの情報を前にすると、人は決定を先延ばしにしたり、決定すること自体を避けたりすることがある。

選択することは、決定した後にも別の

難しさを生み出す。一つの可能性を選ぶことは、他の可能性を捨てることを意味する。魅力的な選択肢が数多くあった場合、人は選ばなかった選択肢の一つが、もっとよい結果をもたらしたかもしれないと容易に想像できる。したがって、選択肢が多いことによって、実際に自分が行った選択に対する満足度が低くなることがある。自分が選んだものを楽しむ代わりに、手放したものについて考え続けてしまうのである。

これは、選択肢がなければ人はもっと幸福になるという意味ではない。意味のある選択肢がまったくなければ、人は自分には何もできないと感ずることがあり、ある程度の選択肢は個人の自立に不可欠である。重要なのは、選択の価値は、

単に選択肢が存在するかどうかだけでなく、人がそれらを効果的に扱えるかどうかにも左右されるということである。選択肢が増えることが有益なのは、人がそれらに圧倒されることなく比較できる場合に限られる。

したがって、課題は単に選択肢の数を最大限に増やすことではない。個人の自由を拡大しようとする社会は、人々が直面する選択肢を理解することも助けなければならない。明確な情報を提供し、選択肢を有用な形で整理することで、決定を容易にすることができる。自由は、単にいくつかの扉が開いているかではなく、その扉の先がどこにつながっているのかを理解できるかどうかにも左右されるのかもしれない。